## ランバーやまと協業組合から寄附をいただきました

3月23日、町の人材育成のために活用してほしいと、ランバーやまと協業組合から寄附をいただきました。

ランバーやまと協業組合は、町内で伐採された木材をはじめ県内全土から取り寄せた木材を使って建築資材を生産されており、町の産業振興や雇用創出にも貢献されています。

いただいた寄附は、町の人材育成のために有効に活用させていただきます。

ランバーやまと協業組合の児玉代表理事長(右)

## 自衛隊入隊者激励式

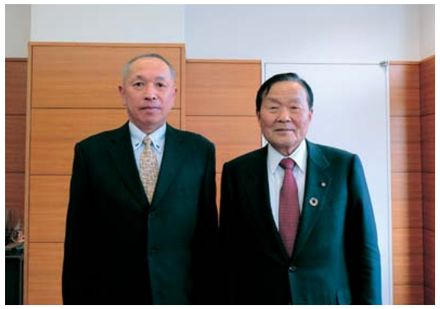
3月18日、役場にて町出身の自衛隊入隊者の激励式が行われました。今年度は赤星日花莉さん(南田)と阪本千佳さん(金内)の2人が入隊されます。それぞれ「配属先での目標に向かって早く一人前の自衛官になれるよう仲間たちと共に頑張っていきたい」と抱負を力強く話されました。梅田町長からは「厳しい訓練があると思うが、自衛隊員として、国民のため、地域のために有事の際など多くの方々の力になってもらいたい」と激励の言葉と記念品が贈られました。

赤星さん(左から3人目)と阪本さん(左から4人目)

## 教育委員の再任について

3月25日、山都町教育委員会委員任命式が行われ、小田原孝也氏(黒川)に任命書が手渡されました。任期は令和4年3月26日から4年間です。令和4年第1回山都町議会定例会(3月)にて任命同意されました。

山都町教育委員会は、町の教育行政(小中学校や社会体育、生涯学習など)について、教育長および4人の教育委員との合議により、中立的に意思決定を行う組織です。また、町長と教育委員会が円滑に意思疎通を図り課題や目指す姿を共有しながら教育施策を進めていくため、山都町総合教育会議を設置しています。


小田原孝也教育委員(左)

## 給水車を導入しました

3月15日、山都町水道事業では、災害や断水などが発生した場合にも安心安全な水を届けるため、給水車を導入しました。

これまでは、ポリタンクをトラックに積み込み給水を行っていましたが、今回導入した給水車は一度に1,600ℓ(500人が1日に使う分の飲料水)を運ぶことができます。さらに、加圧ポンプを搭載しているので、約20mの高所へ送水が可能となるなど、様々な状況での対応が可能となり、応急給水能力が大幅に向上しました。

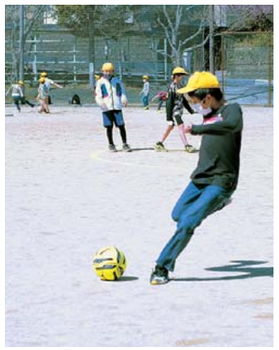
## 馬すじ肉500kgを保育園・福祉施設などに寄贈

2月25日、県内で食肉卸売業を営む株式会社マイシン代表取締役芹口俊浩さんより馬すじ肉500kgを寄贈いただきました。本町川口地区出身の芹口さんは「コロナ禍で所得が減少しているというニュースを見て、自分も町のために少しでも協力できればと思い今回の提供に至った。」と話されていました。芹口さんより贈られた馬すじ肉は、町内の保育園や老人ホームなど18施設に配られ、給食などを通して振舞われました。

## 小学校へサッカーボールを寄贈

3月10日、熊本トヨタ株式会社とロアッソ熊本との共同事業「1ゴールアシスト5」プログラムの一環で、町教育委員会にサッカーボール30球が寄贈されました。

このプログラムは県内の子どもたちがスポーツで健康になることを目的として、ロアッソ熊本がリーグ戦において1ゴールごとにサッカーボール5球を県内小学校に寄贈するものです。



後日、児童たちは嬉しそうにボールを受け取り、「将来入りたいチームのマークが入っていてとても嬉しい」「(ロアッソのサッカーボールを使ったことで)チームに入れた気持ちになれた」などと話し、さっそく新しいボールでサッカーを楽しんでいました。

井手教育長(左)とロアッソくん(右)

寄贈されたサッカーボールを持つ矢部小学校の児童

## 走破！清和小～日本１周

清和小6年生の皆さん

3月10日、清和小の6年生15人が日本一周の距離を走るという目標を達成しました。この取り組みは、児童の体力向上を目的に令和2年4月から同校で始まりました。児童たちは、清和小から北海道の宗谷岬まで往復4,520km、運動場37,667周分を2年かけて走り切りました。自主参加の取り組みですが、クラス全員で毎日頑張る6年生の姿を見て他学年の児童たちも参加するようになったそうです。

参加した児童の中で一番長い距離を走ったという田上優心さん(高月)は「走り終わって、やっとゴールができてとても嬉しかった」と話し、また毎朝誰よりも早く運動場に来て走ったという藤嶋市華さん(郷野原)は「北海道まで走った実感は無いけど(達成できて)嬉しい」と笑顔を見せてくれました。

『令和2年度森林・林業白書』(林野庁)より
「森林資源の循環活用(イメージ)」

## 森林×SDGs

森林は、水源のかん養や土砂災害の防止に貢献するだけでなく、気候変動を抑制するなど多面的な機能が期待されています。SDGs(持続可能な開発目標)への関心が高まっているなか、森林と林業・木材利用に関する活動に注目が集まっています。

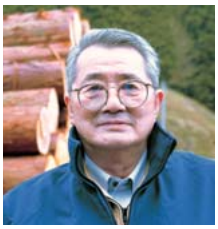
森林の多くは、育った木を伐採した後、再び木を植えて育てていくことにより、循環的に利用することが可能な資源です。森林に恵まれた山都町でも、林業・木材産業事業者をはじめ、さまざまな方々が森林の保全に関わっています。

## 木を育てる、収穫する　木材共販所開設記念創業市

３月23日、緑川森林組合木材共販所の開設を記念した創業市が開催されました。全部で2,320㎥が出品され、ヒノキが1㎥51,000円とその日の最高単価で競り落とされました。緑川森林組合は、山都町に本所を置き、緑川流域の木材生産や森林管理、木材共販所・園芸市場運営などを行っています。

**■緑川森林組合　坂田鉄太郎組合長**

森林は、木を植えて、育てて、間伐・収穫して、また植えて…といった循環を保つことが大切です。しかしながら、町内の森林従業者の数は減少しており、広大な森林面積に対して管理が追いついていないのが現状です。適切な間伐を行うことで、倒木や土砂崩れなどの災害を防ぐことに繋がります。森林の管理についてお困りのことがあれば組合へご連絡ください。相続した山林の管理についての相談も受け付けています。



**問合せ先　緑川森林組合　☎72-0154**

↑創業市の様子

伐採作業の様子→

## 木を植える　Present Tree in くまもと山都2022

３月27日、荒谷の伐採跡地に2,000本の広葉樹の苗が植樹されました。この植樹事業は、NPO法人環境リレーションズ研究所が運営する森林再生と地域振興の実現を目指すプロジェクトです。今回の事業は自動車輸入組合FCAジャパンと化粧品会社ロクシタンジャポンの協力のもと開催されました。

**■森林土地所有者　藤川秀一さん**

植栽にどう取り組んでいくか悩んでいました。両親は高齢で作業が難しく、自分だけで行うのも難しい。そう悩んでいたところ、昨年、白糸地区で植樹事業が行われたのを知りました。この活動は都市部の人が木の里親となり、森づくりに参加することで地域交流活性化も目指しています。参加者が山都町を知り、再び町を訪れるきっかけとなれば嬉しいです。